

Title	センター長退任にあたって
Author(s)	小泉, 光恵
Citation	大阪大学大型計算機センターニュース. 1987, 65, p. 1-1
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/65728">https://hdl.handle.net/11094/65728</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

# センター長退任にあたって

小 泉 光 恵

私は去る3月31日を以って長らく住み馴れた大阪大学を去り、同時にセンター長も退任した。顧みると昭和58年8月21日関谷全前センター長のあとを受けて第3代センター長に就任してから約3年半になる。就任時の私は4年間にわたる産業科学研究所長の重職から解放されてヤレヤレと思っていた矢先であった上に、およそ大型計算機センターとの縁は薄く、運営委員などもつとめたことがなかったので、どうなることやらと戸惑った。それが任期中どうにかもちこたえられたのは、ひとえに歴代センター長をはじめ、運営委員会、各種委員会、地区協議会、その他関係各位の御支援によるものと改めて感謝せざるを得ない。とくに本センターの牧之内前研究開発部長、藤井助教授（現基礎工学部）、大中講師には計算機の素人である私の良き通訳として御援助頂いたことを忘れることができない。

さて、就任当時の大型計算機センターをとり巻く諸情勢は厳しく、漸く峠は過ぎていたものの負担金の統一省令化問題や学術審議会学術情報部会における大型計算機センターの在り方の審議が未だ終息しておらず、加えて計算機借料の減額といった非常事態まで発生する有様であった。これは7センターの仲間意識を高める結果を生み出し、ベテランの東大有馬、京大丹羽両センター長の巧みな舵取りにより、新たにセンター長会議を頂点とする7センター間連絡調整機構が再発足することとなり、さらに61年度には新発足した学術情報センターを加えた8センター組織の結集へと展開した。

この間本センター内では、かねてからの懸案であった豊中、吹田両キャンパス間を結ぶミリ波による無線通信路が美津濃株式会社水野健次郎社長の協力を得て昭和59年に完成し、十分とはいえぬまでも両キャンパス間のデータ通信回線の拡充に貢献した。つづいて昭和61年度には待望のスーパーコンピュータが導入され、高速演算を必要とするユーザの要望に答えることが可能となった。さらに同年度に研究開発部に振替えによる教授の増員が実現し、久方振りに同部の強化を見ることとなった。また昭和62年度には計算機借料の増額が期待できそうな情勢になったことや、学術情報センターによる基幹ネットワークの整備が動機となって他大学に比べて数年おくれていた本学のLAN計画が急速に具体化し始めたことは、衝に当たった者として同慶の至りに堪えない次第である。これらもろもろのことに対する文部省学術国際局学術情報課はじめ関係各位の御理解と御支援に深い感謝の意を表したい。

最後になってしまったが去る4月1日から工学部山田朝治教授が次期センター長に就任された。私に対するのと劣らぬ御支援をひきつづきお願い申し上げる次第である。